

# 北海道防災会議地震火山対策部会 地震専門委員会

地震防災対策における減災目標設定に関する  
ワーキンググループ  
(第17回)

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に係る道の被害想定について

# 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に係る道の被害想定について

## 道の被害想定

### 公表時期

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に関して、国がマクロ的な被害想定を公表したことから、道として、市町村が個別具体的防災対策の検討を進めることができるよう、市町村ごとの被害想定を6月中を目処に公表。

### 公表内容

太平洋沿岸市町村における被害想定について先行して、国が算出した被害想定結果をベースに、WGにおいて決定した被害想定項目、算定方法により、市町村ごとの被害想定を算出。

### 被害想定項目

太平洋沿岸市町村における建物被害及び人的被害で定量的に算出可能な項目について公表。

# 被害想定項目

項目	単位	国 日本海溝モデル			国 千島海溝モデル			道	
		夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	(市町村ごと)	評価方法
<b>1. 建物被害等</b>									
1.1 津波による被害【全壊棟数】	棟	118,000	118,000	118,000	51,000	51,000	51,000		定量評価
流氷を考慮した場合	棟	118,000	121,000	121,000	51,000	56,000	56,000		定量評価
1.2 揺れによる被害【全壊棟数】	棟	－	－	－	1,400	1,700	1,700		定量評価
1.3 液状化による被害【全壊棟数】	棟	800	800	800	1,600	1,600	1,600		定量評価
1.4 急傾斜地崩壊による被害【全壊棟数】	棟	－	－	－	70	70	70		定量評価
1.5 地震火災による被害【焼失棟数】	棟	－	10	－	600	3,100	700		定量評価
1.6 津波火災による被害【出火件数】	件	( 200 )			( 70 )				定量評価
1.7 ブロック塀・自動販売機等の転倒【転倒数】	件	( 2,700 )			( 3,400 )				定性評価
1.8 屋外落下物の発生【建物棟数】	棟	( 100 )			( 500 )				定量評価

項目	単位	国 日本海溝モデル			国 千島海溝モデル			道	
		夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	(市町村ごと)	評価方法
<b>2. 人的被害</b>									
2.1 津波による被害【死者数】	人	94,000	108,000	137,000	74,000	79,000	85,000		定量評価
低体温症要対処者	人			19,000			14,700		定量評価
2.2 建物倒壊による被害【死者数】	人	-	-	-	30	40	50		定量評価
2.3 急傾斜地崩壊による被害【死者数】	人	-	-	-	-	-	10		定量評価
2.4 火災による被害【死者数】	人	-	-	-	-	100	30		定量評価
2.5 ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物による被害【死者数】	人	-	-	-	-	-	-		定性評価 ※落下物のみ定量
2.6 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による被害【死者数】	人	-	-	-	10	20	20		定量評価
2.7 揺れによる建物被害に伴う要救助者（自力脱出困難者）【脱出困難者】	人	-	-	-	600	500	400		定量評価
2.8 津波被害に伴う要救助者・要搜索者（要救助者数、要搜索者数）	人	44,000	47,000	51,000	30,000	27,000	23,000		定量評価
負傷者	人	5,400	5,100	5,900	8,200	4,600	4,200		定量評価
2.9 災害関連死	人	定性評価			定性評価				定性評価
2.10 その他の人的被害	人	定性評価			定性評価				定性評価

項目	単位	国 日本海溝モデル			国 千島海溝モデル			道	
		夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	(市町村ごと)	評価方法
3. 生活への影響									
3.1 避難者【避難者数】(地震・津波)	人		413,000			250,000			定量評価
3.2 要配慮者	人		(117,000)			(47,900)			定量評価
3.3 帰宅困難者	人	定性評価			定性評価				定性評価
3.4 物資【物資不足量】	万食		1,000			430			定量評価
3.5 医療機能【転院患者数】	人		19,000			8,900			定量評価
3.6 保健衛生・防疫・遺体処理等	人	定性評価			定性評価				定性評価
3.7 エレベータ内閉じ込め【人数】	人	100			90				定量評価
3.7 エレベータ内閉じ込め【棟数】	棟	80			60				定量評価
3.7 エレベータ内閉じ込め【台数】	台	140			100				定量評価

項目	単位	国 日本海溝モデル			国 千島海溝モデル			道	
		夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	(市町村ごと)	評価方法
<b>4. インフラ・ライフライン被害</b>									
4.1 道路（高速道路・一般道路）【被害箇所数】 （橋梁含む）	箇所	2,700			1,100				定量評価
4.2 鉄道【被害箇所数】	箇所	800			1,200				定性評価
4.3 港湾【被害箇所数】	箇所	-			50				定量評価
4.4 空港	-	函館震度 5 強、新千歳震度 5 弱、倒壊・液状化・浸水なし			釧路震度 6 強、新千歳震度 5 弱、倒壊・液状化・浸水なし				定性評価
4.5 上水道【断水人口】	人	15,000			302,000				定量評価
4.6 下水道【支障人口】	人	1,140,000			530,000				定量評価
4.7 電力【停電件数】	軒		107,000			54,000		定量評価	
4.8 通信【不通回線数】	回線		87,000			43,000		定性評価	
4.9 ガス（都市ガス）【供給停止戸数】	戸		60,000			67,000		定性評価	

項目	単位	国 日本海溝モデル			国 千島海溝モデル			道	
		夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	(市町村ごと)	評価方法
5. その他施設等の被害									
5.1 災害廃棄物等【廃棄物量・堆積物量】	万トン		3,800			2,500			定性評価
5.2 道路閉塞【閉塞率】			図示			図示			定性評価
5.3 道路上の自動車への落石・崩土		定性評価			定性評価				定性評価
5.4 交通人的被害（道路）		定性評価			定性評価				定性評価
5.5 交通人的被害（鉄道）		定性評価			定性評価				定性評価
5.6 宅地造成地		定性評価			定性評価				定性評価
5.7 危険物コンビナート施設【火災・流出・破損箇所数】	施設数	-			10				定性評価
5.8 大規模集客施設		定性評価			定性評価				定性評価
5.9 地下街・ターミナル駅		定性評価			定性評価				定性評価

